

第4章 まちづくり推進エリアと魅力向上プロジェクト

4-1 まちづくり推進エリアの設定

3つのゾーンと4つの拠点に関するエリアから、重点的にまちづくりを進めるための5つの推進エリアを設定します。

現地調査対象地	まちの特徴とまちづくりの方向性	属するゾーン
A. 駅周辺	特徴：北信州の玄関、交通結節点、賑わい拠点 方向性：まちの玄関にふさわしい空間を創出します。	まちの玄関
B. 西敬寺～愛宕町.	特徴：寺院群の入口 方向性：寺の風情を醸し出す静穏な生活空間を創出します。	まちの客間・庭園
C. 肴町周辺	特徴：商店街と寺町をつなぐ界限 方向性：城下町の風情を醸し出す静穏な生活空間を創出します。	まちの客間庭園
D. 愛宕町界限	特徴：寺院群と仏壇店雁木通り 方向性：寺町の風情を醸し出すもてなし空間を創出します。	まちの客間庭園
E. 人形館周辺	特徴：観光拠点 方向性：城下町の風情と経済発展、静穏な生活空間を創出します。	まちの客間庭園
F. 仲町通り	特徴：飯山城跡に直近した商店街 方向性：既存の蔵等を活用した城下町空間とします。	まちの居間台所
G. 本町界限（北側）	特徴：日用品を販売する商店街 方向性：景観創出と賑わい創出を図ります。	まちの居間台所
H. 本町界限（南側）	特徴：日用品販売・飲食店が立ち並ぶ委商店街 方向性：景観創出と賑わい創出を図ります。	まちの居間台所
I. 真宗寺線 (通称：25m 道路)	特徴：真宗寺と桜並木と水路が通りの代表的資源となる界限 方向性：文学の小路として通りの修景を図ります。	まちの玄関
J. 上町周辺	特徴：日用品販売・飲食店が立ち並ぶ委商店街 方向性：景観創出と賑わい創出を図ります。	まちの玄関
K. 栄町周辺	特徴：飲食店が立ち並ぶ界限 方向性：景観創出と賑わい創出を図ります。	まちの玄関

推進エリア1：飯山駅周境界限

『まちの玄関』～いざなう～

- ・新しい拠点から歴史・文化へといざなう「導入」の空間
- ・飯山と周辺地域をつなぐ情報発信拠点
- ・周囲の豊かな自然への入口

推進エリア2：愛宕寺町界限

『まちの客間・庭園』～むきあう～

- ・小京都の風情を醸し出しといる落ち着いた空間
- ・西丘陵地の寺院群と一体となった歴史・文化・産業の発信拠点

推進エリア3：飯山城跡公園・人形館界限

『まちの客間・庭園』～もてなす～

- ・飯山発の個性的歴史・文化の発信拠点として歴史情緒あふれる空間
- ・来訪者が「来てよかった」と感じられるようなもてなし空間

推進エリア4：広小路界限

『まちの居間・台所』～くつろぐ～

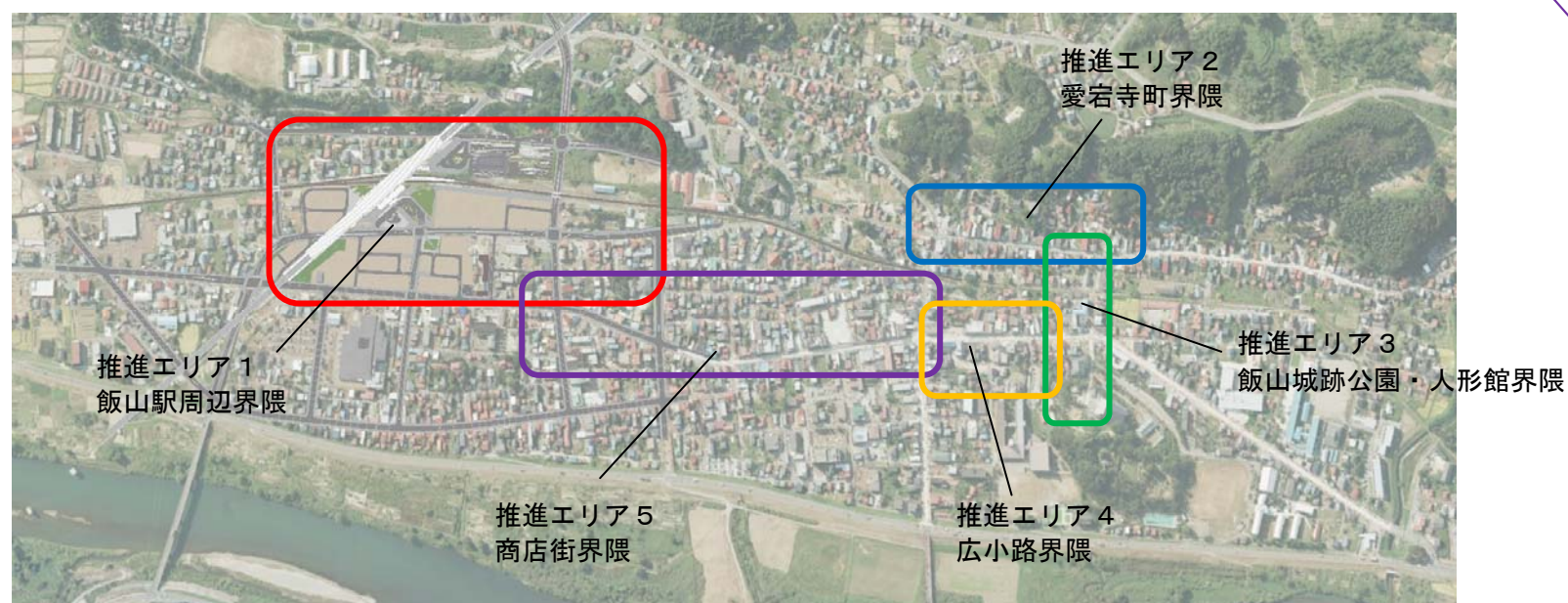
- ・愛宕寺町と人形館界限の歴史エリアと商店街の活動エリアをつなぐ「ほっと息がつけるやすらぎの空間」
- ・「落ち着いた雰囲気」で食を楽しむ空間

推進エリア5：商店街界限

『まちの居間・台所』～にぎわう～

- ・市民と来訪者が交わり賑わう空間
- ・地域産品と食の提供によるにぎやかな空間

【まちづくり推進エリア位置図】



4-2 魅力向上プロジェクト（市民と協働のまちづくりプロジェクト）

自然の彩りを活かし、歴史と文化にふれあう魅力的なまちを構築するために、新幹線開業までに『魅力向上プロジェクト』により集中的な事業展開をおこないます。

魅力向上プロジェクトとは・・・

美しいまちなみ景観や元気（活気）あるまちを市民と共に積極的に育てていくために、4つのプロジェクトを柱にまちづくりを展開していきます。

4つのプロジェクト

- I. 『美しいまち』プロジェクト
- II. 『まちなか賑わい』プロジェクト
- III. 『歴史と文化を伝える仕掛け』プロジェクト
- IV. 『まち“庭”』プロジェクト

プロジェクトの展開は次のとおりといたします。

I. 『美しいまち』プロジェクト

・建物修景

住民との話し合いでつくられた修景ルールにより建物の一部を修景し連続性のあるまちなみ景観をつくります。



例) 冬期間の散水消雪による水はねで錆色に汚れてしまうサイディング壁に下見板を施すことにより外壁を守りながらも景観形成を図ります。日常生活から生まれる修景を考えます。



・植栽による修景

緑豊かなまちなか空間を創造するために、遊歩道や敷地の空地に飯山に合った植栽を施します。



・工作物の修景

バス待合所や塀・柵、自動販売機など周囲の風景（風情）に配慮した工作物とします。



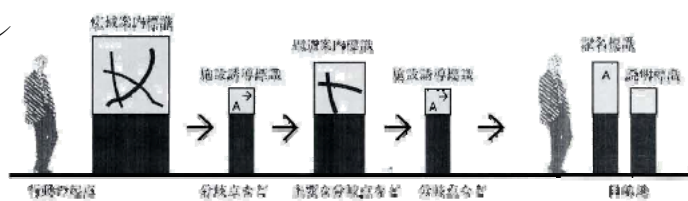
・まちなか案内サインの整備

統一されたデザインでわかりやすい誘導案内サインを整備します。



デザイン性に優れた誘導案内サイン

まちなか回遊動線に沿ったサイン配置パターン



・時間と共に深みが出る自然素材の活用

遊歩道などに使用する材料は、できる限り自然素材を使い経年と共に素材の良さ（深み）がでるようになります。



・環境衛生美化の推進

花づくりを機運としたまちづくりと住民の参画や、きれいなまちを目指すため景観に配慮したゴミステーションを設置するなど衛生面の向上も推進します。



・芸術性を感じる演出

伝統工芸や技法を活用してまちなかを演出します。



例) 和紙で作られた灯籠や創作オブジェは駅や公共施設・店舗の内部空間を演出します。

Ⅱ.『まちなか賑わい』プロジェクト

・飯山版の商品開発と賑わいをもたらす起業家の誘致と支援

業種別スキルアップ事業の実施により、地元素材・技術を活用した魅力向上を図ります。

例えば、「九州ちくご元気計画」では、もったいない農産物研修・ちくご観光プロデューサー育成研修・伝統工芸魅力再生研修・産直住宅開発研修などをおこない、商品開発・人材育成・起業を展開中であります。



・回遊性と活性化への試みに対する支援

回遊性を高めるための歩行者支援システムの構築やまちなかの賑わいを創出するため、新たな取り組みに対して支援を強化します。空き店舗の利用促進のための家賃補助や簡易的な屋台村からのスタートで将来的にまちなかで独立を考えている者へのインキュベート機能など柔軟かつ出店者へのリスク軽減を図ります。また、まちなかには誰もが気軽に立ち寄れ“まちの情報・交流機能”を有する拠点づくりを進め、人が集まるしくみを構築します。



ベロタクシー (松本市)



まちなかサロン



屋台村

・朝市 (マルシェ) やオープンカフェの開催

まち庭では、憩い休息の場となったり、野菜の販売や地酒・ジュース、和菓子など地元ならではの加工品を提供します。



Ⅲ.『歴史と文化を伝える仕掛』プロジェクト

・歴史の見える化の推進（人材や IT などを活用しわかりやすく伝える）

飯山の歴史や文化を楽しくわかりやすく伝えられるよう、ニーズにあった案内を推進します。専門ボランティアによるガイドや情報通信端末（ICT）による案内などが考えられます。また往時を思わせる雰囲気づくりも重要です。



・地元の産物を使った食の提供

おいしい飯山の農産物を使用した料理をまちなかで提供したり、飯山駅でしか購入できない駅弁の開発（謙信寿司御膳・ふるさと飯山弁当など）を進めます。



・優れた人材のまちづくり参画

まちなかには様々な技術に富んだ人材が豊富におり、全国にも名の通る方もいます。こうした方を中心にまちづくりを展開し人と人とのつながりをつくります。



・精神文化を教え、歴史的風致の保全

禅の聖地であり、精神文化の拠点である“正受庵”をはじめ寺院群は、まちなかの『癒しスポット』として訪れる人の心を落ち着かせます。ここでは住職の説法や禅体験・写経など精神文化を教えるとともに、周辺地区の風致的な保全も図ります。



IV. 『まち“庭”』プロジェクト

・四季を感じる“庭（公共空間）”の整備

回遊ルート沿いの公共空間で四季が感じられる植栽（モミジなど）と風情が楽しめるロケーションづくりを進めます。

飯山駅界隈では、上信越高原国立公園を彷彿させる空間づくりを行い、まちなかへ進むにつれ寺社が目につき城下町の面影も感じられるため、その風情にあったまち庭づくりを進めます。



広大な三国山脈・関田山脈の山並みを背景に、
自然が織りなす駅前空間



城下町・寺町のまちなみ空間に移り行く。



歴史と憩いの空間としての飯山城跡公園
(三国山脈・関田山脈の山並みと千曲川の
風景が再び開ける)